

# 平和で安らかな世界を!

## 9月11日~16日 モンゴル日本祭で日蓮宗日蒙交流団大活躍

### ワランガンタン寺で慰霊祭

「第四回モンゴル日本祭・物産展二〇一三」に参加し、盛りあげるため、昨年と同じように、齋藤堯圓師(日蓮宗全国社会教化事業協会連合会長・無憂花基金代表)東京都墨田区業平二四一九・春慶寺住職)の企画で、「日蓮宗日蒙交流団(六名)が構成され、九月十一日から十六日までの六日間、モンゴル・ウランハートルを訪問し、「モンゴル日本祭」を大いに盛りあげた。

今回の「日蓮宗日蒙交流団」の参加者は、次の六名である。

齋藤堯圓師(会長)、戸田裕久師(立正大学仏教学部教授、木内光子様(全日本中国残留帰国者(立正大学仏教学部四年

協会の会長代行、中国遺骨還願会会長、山本雪子様(春慶寺檀信徒・エベレスト最高齢登頂記録を更新した三浦雄一郎さんの妹さん)、齋藤海晴様(立正大学仏教学部四年



ソドノム・ホロリン寺住職



デンバレル・ガンダン寺住職



戸田裕久立正大学教授



齋藤堯圓会長



㉑慰霊祭を盛りあげた人々、㉒モンゴル大学

## 一万人以上の日本人捕虜が収容所に

生・齋藤会長の娘さん)、尾谷卓一師(立正公論編集長)で、スルーガイドは、スベージン・パトール教授(モンゴル国立大学理事・国際言語文化学部日本学科博士)が担当してくださった。

第一日目(九月十一日)は、十四時四十分日本成田空港を出発、十八時五十分モンゴル・ウランハートル空港に着、映画「チンギスハーン」の舞台となったチンギスハーン村のゲル(モンゴル伝統の円形天幕)の中で、モ

ンゴルの歴史的な生活感覚を楽しみながら宿泊した。

第二日目(九月十二日)は、はじめにモンゴル仏教代表のガンダン寺院へ、デンバレル・チャイジャムツツ住職宛てを表敬訪問、ご挨拶とともに、戸田立正大学教授から、狹下へ「英訳法華経」の改訂版「法華経の普遍性・国際性」第七回法華経学会論文集、「立正大学紹介のパンフレット」など沢山の資料を献呈され、モンゴルと日本の宗教状況について熱心に意

見交換を行なったあと、特定非営利法人アマダ主催による平和祈念法要が、ガンダン寺本堂で開催され、はじめにモンゴル仏教黄帽派僧侶による法要、つづいて日蓮宗大本教の順で厳修されたが、日蓮宗法要の折、読

経につづいて、齋藤導師(会長)が、左に掲載した「渡邊照敏宗務総長挨拶文」を読みあげ、ガイドさんがモンゴル語に翻訳され、盛りあがった。

当日は、このあと「国立自然史博物館を見学した。

第三日目(九月十三日)は、はじめにモンゴル国立公文書館を訪問し、デンバレル・ウルジハートル副館長とお会いし、ガンダン寺と同じように書籍や資料を寄贈し、意見交換のあと、公文書館書庫を見学させていただいた。

つづいてモンゴル国立大学を訪問し、社会科学部宗教学科教授のマガサルジャブ・ガントウヤ教授(博士)と会見、書籍類の寄贈と意見交換、ここでは、立正大学仏教学部との学術交流について熱心に協議がすすめられた。

ここでフヤン葬儀社、つづいて、モンゴル紅帽派代表をしているダシチヨイン・ホロリン寺のペレンレイ・ソドノム師を表敬訪問し、懇談するとともに、紅帽派の寺院跡チヨイジンラマ博物館を見学させていただいた。

当日、夜に開催された第四回モンゴル日本祭のオープニングパーティでは、「両国の文化交流に貢献した」ということで、在日本モンゴル大使館の林 伸一参事官より感謝状が授与されたが、その中には、齋藤堯圓会長、戸田裕久教授、尾谷卓一本紙編集長も含まれており感動するとともに、こんな

## 第二次世界大戦慰霊法要に感謝

### 渡邊照敏宗務総長挨拶文

本日、モンゴル・ウランハートル・ガンダン寺院において、第二次世界大戦戦没者並びに捕虜収容所病没者慰霊法要が厳修されますこと誠に尊厳浄行と存じ上げ、宗門を代表し哀悼の意を表します。この法要は日蓮宗全国社会教化事業協会連

合会会長、無憂花基金代表である齋藤堯圓上人へのモンゴル仏教会代表ガンダン寺院住職デンバレル・チャイジャムツツ狹下

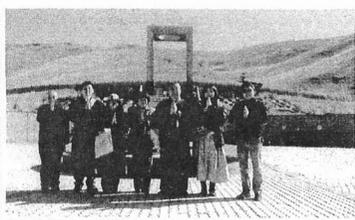
殊に、モンゴル文字に翻訳された羅什訳「法華経」が昨年完成し、み仏の教えと共に、「南無妙

法蓮華経」の御題目が多々の方々によって高唱され、慰霊法要が行なわれますことは、誠に感慨深々、仏教におけるモンゴルと日本の架け橋となるのであります。

さて、私も人類は、有史以来、常に世界の何処かで戦争・紛争を生じさせ、その戦禍によって人々の涙を無尽に流してきました。第二次世界大戦では日・蒙両国共に多大なる犠牲者を出し、更に終結後、このモンゴルの地で一万人以上の日本人捕虜が収容所に入れられ、多くの方が亡くな

つたと聞き及んでおります。私たちはこの地で流された血と涙を教訓として心に刻みつけ平和と安穩な世界を築き挙げなければならないと深く感じるのであります。(後略)

◀日本墓地で慰霊法要



九月十五日は「チンギスハーン像」と、「モンゴル十三世紀紀行観光」をし、九月十六日には、全員元気で帰国した。



慰霊祭を盛りあげたガンダン寺本堂